

— 指標モデルとしての伝統民家の分析と検証 —

設計施工基準を作成するための重要な要素をもつと判断した建造物等を「指標モデル」として位置付けている。

三田市高平地区／google mapより



閉鎖系と開放系



自然素材と工法



立地環境からみる

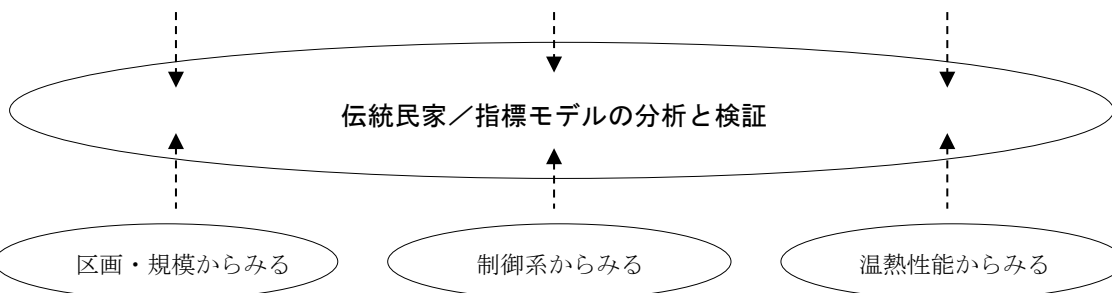
民家が立地する自然条件のうち、特に気温差を比較検討する。外気温と民家形態・地域の関係から環境との適合性を分析する。

かたち・建て方からみる

住まいの原則的な共通項として「すごしやすさの確保」を据え、伝統民家にみられる特徴的な要素を解説する。

素材・工法からみる

伝統民家が造られている自然素材の特性や適合性などに照準をあて、工法手順を含め分析・検証する。



区画・規模からみる

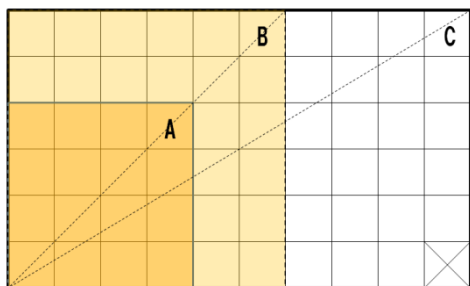
伝統民家を規模の面から検証し、生活スタイルやコスト面の適正な手法や基準への手がかりをさぐる。

制御系からみる

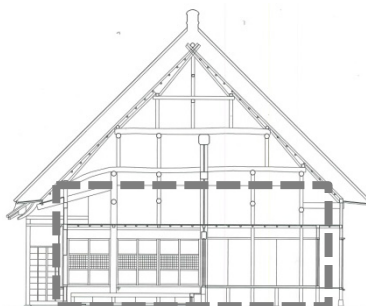
制御系は外的環境から室内の快適性を確保する役割を担い『床・壁・天井・床下空間』が主要要素となり、その指標を図面から分析する。

温熱性能からみる

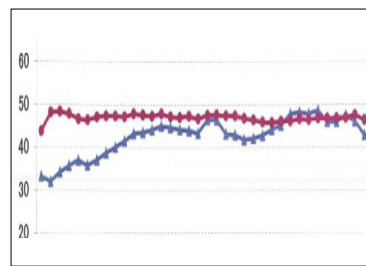
室内の温熱・気候環境の視点から考察し、計測実験などを通じて仕様基準となる指標を検証する。



伝統民家と建売住宅の比較



床・壁・天井・床下空間



室内の温湿度推移

《補記》

指標モデルの対象とした伝統民家は、確かな工事記録が残されている重要文化財建造物のほか、現住の民家・蔵などふくめられた。立地環境に関しては、基礎自治体による悉皆的な伝統民家調査および記録・報告書等がある地区とした。